

## ミシガン大学研修記(1997-1998)

中里見, 敬  
東北大学文学部 : 助教授

<https://hdl.handle.net/2324/17118>

---

出版情報 : 1998-06. 東北大学文学部中国文学研究室  
バージョン :  
権利関係 :

## Baby Shower のこと——大学院生と出産・育児

ミシガン大学滞在中に、Baby Shower に2度も招かれた。

最初、Ruth の Baby Shower に招待されたときは、「まだ赤ちゃん誕生の知らせは聞いてないけど、ずいぶん早産だったのかな」、「それにしても Shower とはキリスト教の洗礼と関係あるのかな」などと、出産予定日より1ヶ月以上も前に設定された赤ちゃんのお祝いの会を不思議に思ったものだ。

Baby Shower とは、出産を間近に控えた夫婦のために、みんなでお祝いの品を持ち寄るパーティのことで、日本や中国のように赤ちゃんが産まれたあとでプレゼントを贈るのとは順序が逆だ。そのために、僕は上のような誤解をしたのだったが、NHKラジオの「ビジネス英会話」（杉田敏講師）の熱心なリスナーだった妻は、スキットに取り上げられた Baby Shower のことをよく覚えていて、ピンときたそうだ。

Ruth のときには彼女の夫の妹のアパートが、Margaret のときには知人の家が、それぞれ会場になり、会場の提供者が同時にホスト／ホステスとなり、Baby Shower の招待状の発送もしていた。もちろん誰を招待するかは、新しく母親・父親になるカップルがリストアップしたものでしょう。親しい学生仲間だけで開いた Ruth の場合は、ゲストが一皿ずつ料理を持ち寄る Potluck 形式だったのに対して、比較的正式な Baby Shower だった Margaret のときは、男性と子供はお断りで、女性だけの集まりだった。簡単な余興も用意されており、Ruth のときには皆が持ってきた子供時代の写真をミックスして、どの写真が誰かを当てるといったものだった。Margaret のときには、幼少時の記憶で一番楽しかったことを一人ずつ披露するというものだった。まもなく親になる者たちが、ふと自分の幼時に立ち戻り、そして生まれてくる子供に思いを寄せる、そんな暖かなホスト／ホステスとゲストたちの思いやりにあふれた心遣いである。しかし、最高傑作は、Margaret 夫妻のために皆でおむつに一枚ずつメッセージを書くという余興だ。どの親もが陥るであろうマタニティ・ブルーの時期、おむつの交換のたびに、友人たちの暖かな激励のメッセージに勇気づけられる彼女たちは幸せ者だ。

さて、肝心のプレゼントであるが、その合理的なことに僕たちは大いに驚いてしまった。Ruth のときは、彼女自身によってあらかじめ指定された子供向けの絵本のリストから、皆が1冊ずつ買っていくというもの。Margaret の場合はなんと、Target というスーパー（日本のダイエーみたいな所）のコンピュータに、彼女が贈られてうれしいものが入力されており、その中から1つ選んで買くと、コンピュータがその品名を消すという仕組みになっている。哺乳瓶や車のチャイルド・シートなど、実用的なものがずらりとならんでいて、Baby Shower で育児用品はすべてそろってしまいそうだ。日本や中国のように、プレゼントはデパートでとか一流ブランド品をなど見栄をはってしまうのとは違って、Target という最も庶民的な店で、しかも決して無駄にならないようなものをそろえてしまうこの合理性！贈る側としても、何を贈ろうかと悩む必要がない。

Margaret も Ruth も僕の所属するアジア言語文化学科の博士課程の院生である。正確に言うと、Margaret は昨年秋に清末の林訳小説の研究で Ph.D. を取得済み。旦那の David は情報通信関係の会社で営業をしながら、ミシガン大学の夜間のコースで M.B.A. をめざした勉強をしている。彼は学位を取ったら、中国で合併企業のコンサルタントをし、Margaret も得意の中国語を生かして中国の大学で教鞭を執りたいという。

一足先に母親となった Ruth は、この夏に生後半年の子供と、工学部で博士を取得したばかりの旦那 Peter を連れて、中国の雲南・貴州へ少数民族の言語調査に行くことになっている。そこで集めたデータをもとに博士論文を完成させるのは数年先のことになるだろう。Peter は、中国の大学で Post Doc の研究を続けられるか、それとも英語の講師などをつとめることになるか、現在交渉中。Ruth は赤ちゃんの産まれたのが、Peter の博士論文の追い込みと重なったため、家で論文執筆に追われる旦那に遠慮して、以前にもまして積極的に大学の各種講演に子連れ参加していた。

こちらの大学院生と付き合っただけで感じるのは、彼らの人生設計の確かさと、そのために必要な学位を取るのだという、大学院に対する目的意識の明確さだ。そして、夫婦で共同して子育てをし、夫婦ともに同じ場所で仕事を得ることができるように、本人たちが最大限の努力をするのはもちろん、それをサポートする行き届いた社会がある。

しかし、高学歴の女性の出産・子育てに伴うキャリア上のリスクは、実力主義の徹底したここアメリカではやはり無視できないし、男性にとっても、二人の例からわかるように、自分の職業選択が、もはや妻や子供と切り離しては考えられないようになっている。

Ruth と Margaret, Peter と David, そしてその子たちの前途を、僕たちは他人事とは思えない切実さをもって見守っていくことになるだろう。

[〔ミシガン大学研修記〕](#) へ